

# ホウレンソウに含まれるカドミウム濃度の品種間差異

食品に含まれるカドミウム濃度の国際基準が検討されています。基準が決まると、それを超える農産物は出荷できなくなってしまいます。そこで、野菜のなかでも、カドミウム濃度が比較的高いホウレンソウについて、カドミウム濃度の品種間差異を調査しました。カドミウム濃度の低い品種やその仲間が事前にわかっているならば、カドミウム濃度が低い安全なホウレンソウを栽培するのに役立ちます。調査の結果、東洋種の方が西洋種より低めで、冬どりホウレンソウの方が夏どりより低めでした。また、西洋種でも土壌のpHを高めればカドミウム濃度の高いものは無くなりました。



ホウレンソウ栽培風景

## 試験に用いたホウレンソウの系統



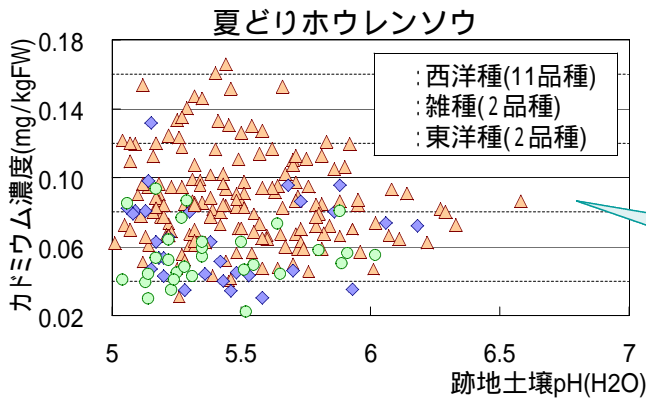
東洋種  
(葉に深い切れ込みがある)



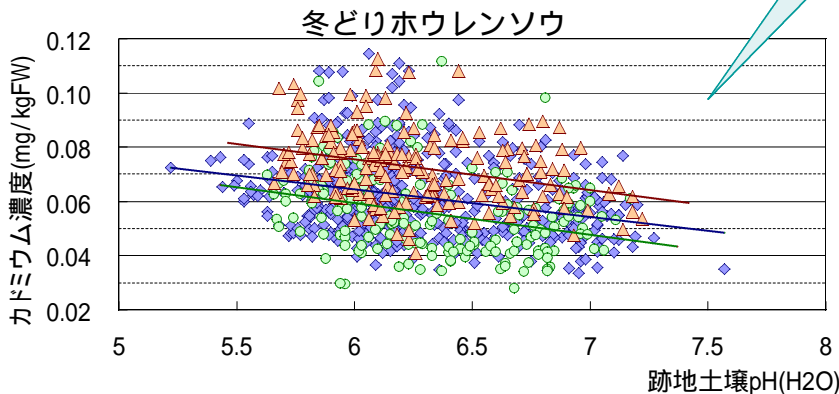
西洋種  
(葉が丸みを帯びている)



雑種  
(東洋種と西洋種  
のかけ合わせ)



土壌のpHが高くなると、カドミウム濃度の高い個体が出現なくなります。



ホウレンソウカドミウム濃度と栽培跡地土壌 pH の関係

( 農産物安全性担当 TEL 0480-21-2091 )